

国道 361 号権兵衛峠道路災害復旧技術検討委員会 第 2 回委員会

1. 日 時：令和元年 11 月 21 日(木) 15:00～16:20

2. 場 所：伊那市防災コミュニティセンター内 会議室

3. 出席委員：

◇大島 洋志 (一社) 日本応用地質学会 名誉会員

七澤 利明 国土技術政策総合研究所 構造・基礎研究室 室長

石垣 政彦 国土交通省中部地方整備局 道路部 道路保全企画官

高橋 智嗣 長野県伊那建設事務所 事務所長

中田 英郎 長野県建設部 道路管理課長

尾出 清 国土交通省 飯田国道事務所 事務所長

※敬称略 ◇は委員長代理

4. 議 事：

(1) 現地調査状況

(2) 仮復旧の方針

5. 議事概要：

別添のとおり

国道 361 号権兵衛峠道路災害復旧技術検討委員会（第 2 回）

【委員会概要】

1. 被災原因について

今回の法面崩落に至った原因は、台風 19 号の豪雨の影響により、トンネル坑口部の地表面深さ 5 m 前後の地下水の流動層から相当量の地下水が流出したことによるものとボーリング調査の結果より推定

2. これまで実施した調査結果について報告し了承された。

① 地山の変状に関する調査

地山や施設の計測結果、地山の崩落などは進展していない。
引き続き計測を続ける。

② 橋梁点検結果

目立った損傷や大きな変位は確認されなかった。
地山が崩落していることから、地山を補完する補強を行い仮復旧に用いることは可能。

③ トンネル点検結果

目立った損傷や大きな変位は確認されなかった。
補強の必要は無く、使用は可能。

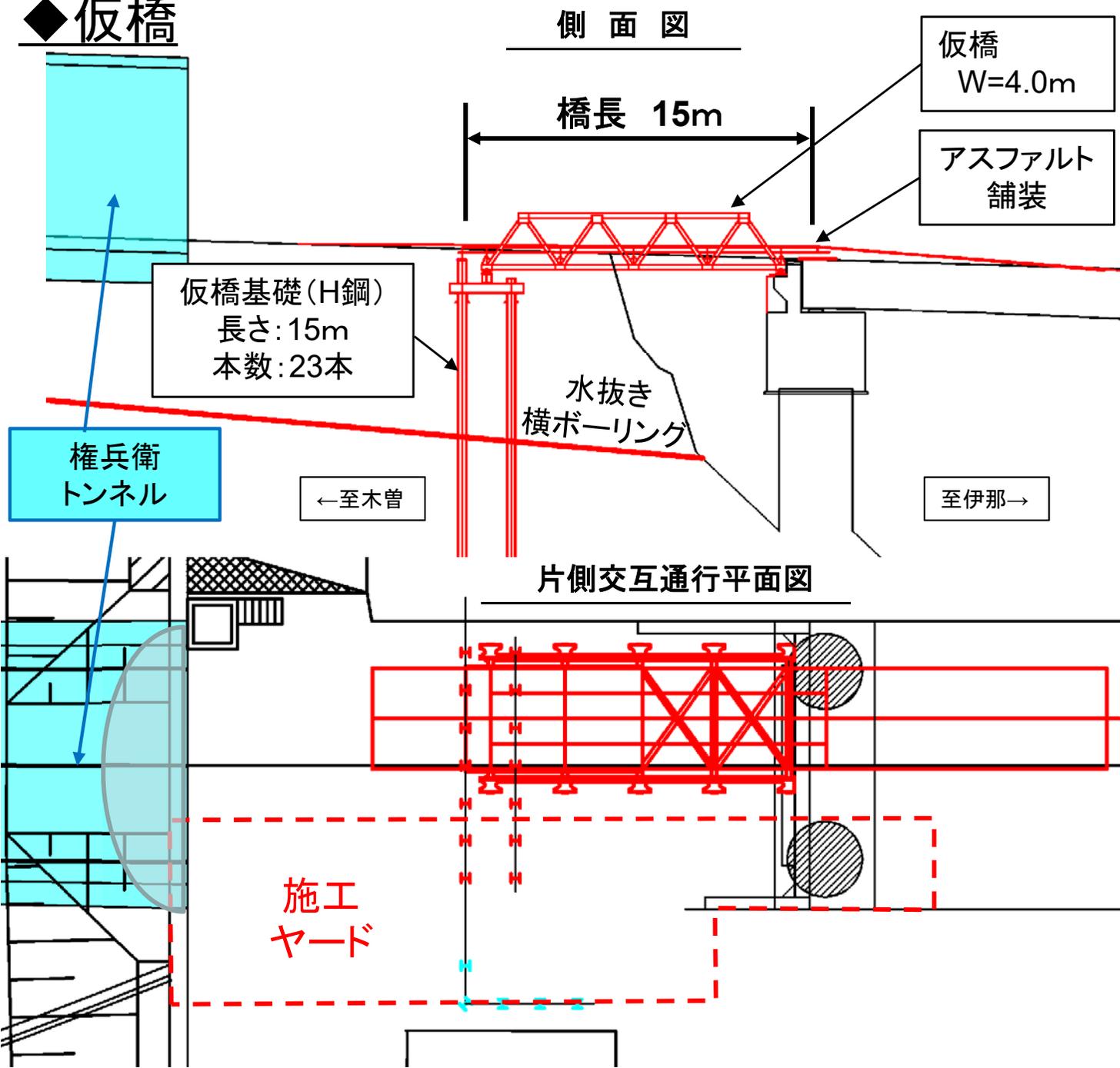
3. 仮復旧工法について基本的に了承された。

① 仮復旧工法の概要は別紙のとおり

水抜きボーリングを実施し、地下水の影響を低減。

② 年内を目標に片側交互通行による暫定的な通行ができるよう、仮復旧工事を推進する予定。

◆仮橋



イメージ写真



断面図

